

# SPIT'EM OUT! "it's absolutely raw"

- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -



## Special Interview DJ KOYA & KANGO

2年目に突入した火曜日レギュラーRED ZONE。今月の巻頭はそのレジデントDJでもあるDJ KOYA&KANGOが二人揃って登場。初レギュラーイベントという不安と期待の中、いろいろ模索しながらも確実に進化し続けた二人の今の心境と今後についての自然体インタビュー。RED ZONE共々要チェックです!

●RED ZONEがスタートして1年経ちましたが、この1年間を振り返っていかがでしたか?

KOYA (以下、KO) : とりあえず1年間いい状況で終われたというのが一番。やる前に想像している事の方が大きくて、実際始まっちゃえばすごくやりたかった事だし、正直楽しかったですね。すごく皆さんに感謝です。お客さんもHARLEMのスタッフの皆さんもKANGOにも。普通にさらって終われたのが良かったなって思います。

KANGO (以下、KA) : オレ的にはいろいろ学ぶ事があったりとか、やりながらいろいろ勉強してきたんですけど、とりあえずKOYAと同じで、1年間終わってうまくいったかなって思います。

●お客さんの反応は始めた頃と変わりましたか?

KO : RED ZONEのお客さんは耳がいいですね。別に手を抜いてる訳じゃないけど、軽く考えて行くとたまにヤられるかな、と感じますね。いいですよ。締まって。ホントにHIP HOP好きな人が多いと思うし、若いわりによく知っているという人が多いかな。僕たちよりちょっと若い世代のDJもよく遊びに来て、プレイを聴いているので、あんまり変な事はやれないなど。その辺は常に気にしています。

KA : RED ZONEのお客さんは感覚が早いから、いい意味でかけたレコードに対しての反応で、ああこれがいいんだってわかっちゃう位ですね。オレもいいようにしてる。やりたいのやらないでいる自分が嫌だし、KANGOも嫌だと思ってる。もちろん流れも大事で、無理にかけけるのではなく、いいかけ方するとさらに盛り上がるし。RED ZONEが他と違うなって思う事は、お客さんがホントに曲をよく知ってる事と、下手な事出来ないってプレッシャーがいい感じなんですけどね。おもしろいですよ。

●お互いのプレイを意識しますか?

KO : それはもちろん。でもオレらって他の曜日のようにDJがそれぞれ分担しているとか、そういう感じでもないかな。自分のやりたいことをやらないと納得出来ない部分があるから、ある程度かぶっちゃってる曲とかあると思うんですよ。逆にそれをやらないと嫌でしょ?

KA : うん。逆にかぶってるのもその日の押してる曲かなって。

KO : そうそう、オレもそれをかけないと嫌だし、そういう強い意志があるから、それをお互いに言い合えないようにしてる。やりたいのにやらないでいる自分が嫌だし、KANGOも嫌だと思ってる。そういう感じですよ。その中で全くずっと同じだなんていう時はDJとして考えるけど、だいぶ時間経ってもう一回くらいいいだろうという時は、それ程他のDJより意識しないで好きなものかけちゃう事はあるかも知れないですね、オレらの場合は。

KA : 逆にそれが色になってるんだよね。

●毎月最終火曜日のRED ZONE SPECIALでは海外からDJを招く事が多いですが、特に印象に残っている人は?

KO : いっぱいいます。来日したDJはみんな個々に思っていた通りの事をやってくれたというのが殆どだよ。その中でも特に意識しているのは、やっぱりSTRETCH ARMSTRONGやMARK RONSON。STRETCHはずっとオレのアイドルだったし、新しいDJだなんて思ったけど、何年もずっと聴き続けて、今も変わらずそういう目で見れるという所が素晴らしいかなと。それに連なって出てきたのがMARK RONSONみたいなイメージがあるから、あの二人に関してはちょっと別格に見ている部分はありますね。他が悪いという訳ではなく、ホントに聴きたいの呼んでもらって、それが聴けるって事に幸せを感じています。彼等が来てくれてオレ達もすごく成長する部分があると思うし。

KA : オレも同じです。STRETCH ARMSTRONGやMARK RONSONは聴くだけじゃなくて、横で見ても熱いものが伝わってくるし、曲に対しての情熱

とか、単純にDJとしてもすごく尊敬しているから、結構心にくるものがあるかな。プレイ的には白人だからというもあるかも知れないけど、すごく繊細。ただ曲と曲を重ねているだけではなく、その意味がいろいろある。そういう細かい部分を聴いているとその人の凄さがわかってくるね。MARK RONSONのスタイルはある意味ディスコですよ。HIP HOPだけにとどまらず、いろんなものをうまーく、これもアリなんだっていうようなかけ方をするDJだなんていうか。新しいか古いのかよくわかんないんだけど、とりあえずオレ達にしてみると、すごい新鮮。

KO : 言葉にするのは難しいですよ、プレイというのは。ホントあの二人に関しては、刺激はすごいもってる。どのDJ以上にというのは思っています。

●ダンサー/オーガナイザーという視点で特に意識している事はありますか? また、KANGOさんがオーガナイザーする2/19 RED ZONE SPECIALショーケースについて。

KA : 特にダンスでこうしようというのはないけど、自分の周りで遊びに来ている人達や、アンダーグラウンドでがんばっている人達で、RED ZONEのカラーに合うようなダンサーとかをどんどん紹介していきたいなと思っています。1つがSIX SENSESのHIROSHIとHIPNOTIC BOOGIEの3人とDJ Jr.達のSHIBUYA HARLEM SHAKER'Sで、もう1つはオレがHOUSE DANCEをやっているきつかけとなったNYのDANCER、CALIEFとSHAN'Sの2人と、10年くらい相棒でやっているSIX SENSESのNADAとオレの4人で、オレにとっての10年の集大成というか、RED ZONEだからこそ出来る2つのチームを紹介します。期待してくれている人もいっぱいいるだろうし、それに応える為にもオレらもしっかりとした事をやりたいし、ダンスってホントにアンダーグラウンドだから、今の時代だと「誰? その人」って言われちゃうかも知れないけど、オレはこの人達で始まったかなという人で、ホントにみんなに紹介したいので是非見に来て下さい! それと3FではDJにSHAN'SとKENTAを迎え、HOUSE,DANCE CLASSICSフロアにして上も下も1日中楽しめるように考えてます。

●お二人が考えるRED ZONEのカラーとは? また2年目に突入して変えて行きたい事はありますか?

KO : 漠然とRED ZONEでどうなの? って言われたらすごく難しいけど、お客さんもある程度イメージは持っていると思う。それは今後も変わるものではなく、ずっと続けていくものだから、日々精進しているうちにまた何かが見えてきたらそれは即実行。新しいものにアンテナ貼るのがRED ZONEだし、貼りたいなと思う。

KA : 去年はHOUSEとか新しいものに入っていることだわって、出来るだけそういうのを入れようと思ってたけど、そういうものをあんまり強く押し出すのではなく、やっぱり中心はHIP HOPだから、HIP HOPの一貫でポンと小出しに出来たらな、と。そこら辺が去年と少しずつ変わりつつある考え方なんですけど、やっぱりHIP HOPをもうちょっと強く。でも今までやってきたような事ではなく、オレ達流の新しいものをやっていって、クラシックでもHOUSEでも常に進化して提供出来たらな、ということをやりたいと思います。

KO : 極端に言うと、(HOUSEやクラシックも) HIP HOPだと思ってかけているんですよ。HIP HOPのDJだからああいうかけ方が許されるのであって、HOUSEをもっと極めれば全然違うと思うし、結局HIP HOPのDJだから、HIP HOPのスタイルでのCLASSICだしREGGAEだしR&BだしHOUSEだという認識なんです。オレはHIP HOPだと言ったらおかしいんですけど、そういう気持ちでかけてるといって、結局はHIP HOPに戻るし、ベースにHIP HOPがなくなったら自分じゃないし。HIP HOPを愛しすぎてからというものあるんですけど。

●制作に関して。

KO : DJとして現場=自分というのを持ち続けたい



のは今でも全然変わらないけど、年々キャリアを積んでくればDJとして世間にアピール出来ることや、自分で打ち出すことが色々出来るようになるんじゃないですか。そういう部分で制作というのはやっていかなきゃいけない事だなぁと最近思っていますね。

REMIXは前にもやってたけど、今回いいタイミングで"aile" (HARLEM RECORDINGSからデビューシングルをリリースする女性シンガー) をプロデュースする事になって、彼女に関しては (REMIXではなくて) オリジナルだし、歌も上手い。ただ自分の中でオリジナルとREMIXにまだそんなに差を出している訳じゃないから、今回オリジナルをやってみてどうなんだろうというのはあったけど、彼女の為に作った曲だし、今の自分出来るだけの力を出してやったつもりなので期待してもらいたいですね。3月リリース予定なので絶対チェックして下さい。制作もクラブプレイみたいに自分の色を今以上にどんどん出していかないとダメだよ。まだまだ発展途上だと自分では思っているけど、これからも日々精進!

KA : オレは制作とかはあんまり焦って考えていない段階で、オレの場合はもっと現場でしか味わえない事をもっと経験して、自分の中でもっとクラブプレイが安定してから次に行こうかなって感じで、まだまだクラブプレイが楽しいから、制作に関してはそこらもうちょっと学んでからかな。

●プライベートで好きな事は? また毎週レギュラーを持って変わった事はありますか?

KO : 特にそんなに多趣味ではないので、いつもレコード探して、スニーカー買って、ホント変わらないです。野球はオフだし (笑)。後は洋服か。凝り出すと止まらないですね。一個コレだっという確実な情報が入ってきちゃうと行っちゃいますね。

KA : KOYAはホントガキの頃から変わらないからね (笑)。オレはレギュラーを持ってからは、いろいろレコードを買うにあたって、火曜日を中心に考えるようになった。それと最初はダンスとのバランスが辛かった。オレの場合中途半端にやるのが嫌だったので、どちらも真剣にやるにはどっちもちゃんとしっかりしたアンテナを張ってないといけないからね。でも共通する所はやっぱりNY。NYっていうのがあるから両方進められたのかな。でも最初はホントにそのバランスが辛くて、忙しい時は「体動かない〜」みたいのもあったりとか。半年くらいしてやっと自分の体の生活のリズムが調整出来るようになってきて、落ち着いてって感じです。服に関してはKOYA程ではないけど、でも新しいものは常に意識して、お互いに情報交換をしつつという感じかな。

KO : 趣味が繋がっちゃってるのがオレ達のカラーかな。趣味ないからヤバイよとか言われる事もあるけど、

今やってる事が趣味で、それがホントにやりたいことに繋がっちゃっているからいいのかも知れないし。

KA : ホント趣味の延長上で繋がっているから。  
KO : そういふのを理想にして考える若い子もいっぱいいるだろうから、やれば出来るよっていうのは言いたいですね。好きな事を一心不乱にやっていけばそれについて何か見えてくるよっていうのはすごく強く言いたい。ふざけた気持ちささえていなければ何か形にはなるよね?

KA : うん、なるね。

●2002年の目標は?

KO : 今やっている事の向上かな。新しいムーヴメントをどうこうっていうのはそれ程ないですよ。制作が今までよりもヘヴィになると思うから、今年はそういう目の前に置かれた状況をこなしていく方が先になっちゃうかな。まだまだ課題が多くて、自分を落ち着いて見れていない部分があると思うから、与えられたものをどんどんこなしていく。そういった意味では去年も今年もそんなに変わらないかな。日々精進です!

KA : とりあえず今年は3月にマイアミに遊びに行きたいですね。いろんな音楽聴いて、海行って。後はクラブプレイをガンガンする。クラブプレイが一番大事なのはその場の空気を読むことだと思うんだけど、常に前と同じプレイじゃなくて、その時に応じているんな展開を作れる。いろんな意味で気の利いたDJになりたい。オレの中での目標なんだけど、出来るだけオレ流に妥協しないでお客さんにも合わせたプレイがしたいし、常にいろんな所で状況に応じてプレイをしていきたい。あとはKOYAと一緒にやって、自分を磨いて、今以上にいいRED ZONEを作れたらなと思っています。

●お客さん&読者に一言……

KO : オレのスタイルはHIP HOPです。誰に何と言われよう。その中でもちろんDJとして幅を広げていかなきゃいけないとか、年々自分も成長してみんなへのアピールの仕方は多少変わるかもしれないけど、一つだけ変わらないのが、オレはベースはHIP HOPだというのはみんなに一言いっておきたいですね。HIP HOP聴きたかったら自分で迷った時に一回RED ZONEに来て欲しいですね。見てもらわなかったら僕たちの事は多分何もわかってもらえないと思うから、機会があったらどうしようかなっていうのは一回見て欲しいです。

KA : 去年は本当にいろんな人達、皆さんに感謝の一言です。オレ自身はとにかく自分の好きな事とことんと追求し、DJとしてもDANCERとしても、KANGOとして仲間達と日本だけでなく世界にも発信出来るように前に突き進むのみです。今年も今年でRED ZONEではみんなといい一夜が過ぎたらと思います。